

# 岡山で実現した奇跡のような名作名演の数々 地方に暮らしていても素晴らしい舞台に出会いたい 観ることへの愛おしさが新しい人と作品を育てていく

1993年3月、アートファームにとって最初の主催事業となった「岡山河畔劇場93春月祭」の開催にあたり、次のようなメッセージが記されている。

——川が呼んでる。一条の流れがもたらしつづける、やすらぎと祝祭のドラマ。その舞台となる旭川と西川の河畔に、県外から、地元から、現代演劇と伝統芸能がつどい、ホールと野外をいかしながら波紋のように広がってゆく演劇祭を。よどみない夢が織りなす感動の岸辺に、街の未来に、岡山の新しい物語を創りだそう——。

当時、岡山県下の演劇鑑賞環境としては、地元の劇団公演や会員組織の例会公演や興行団体の商業公演などに限られていた。一方、日本の現代演劇は1980年代の小劇場ブームを経て、全く新しい文脈により表現された作品や演劇のカテゴリーを超えた作品などが台頭しつつあった。

岡山河畔劇場の誕生は、このような鑑賞環境に一石を投じたといえる。地方に暮らしていても、質が高くて必見に値する旬の演劇に触れる機会を増やしたい——。そんな市民有志の熱意によって発足した岡山河畔劇場は、それまで岡山では観ることのできなかつた演劇作品を次々と企画し上演していった。

一方、市民活動に支えられた招聘公演には自ずと限界もあった。公演の原資を入場料収入などの受益者負担に頼らざるを得ない現状を克服するには、新たな鑑賞組織や支援制度の整備が焦眉の課題となっている。

地域の舞台芸術環境を豊かにしていくうえで、多様な鑑賞機会の促進は重要な要素である。目利きの観客が優れた作品と人材を育て、感動のある舞台が劇場と街をつないでいく。アートファームの活動母体となった岡山河畔劇場の役割は、今も失われてはいない。

## Column

### 岡山河畔劇場前史——

1975年4月桜吹雪舞う岡山城公園に紅テントが翻った

岡山市街地を流れる旭川河川敷に、唐十郎主宰・劇団唐組のテントが出現した1993年に先立つこと18年前、その河川敷を見下ろすの城郭公園に唐組の前身・劇団状況劇場が1975年4月9日、桜吹雪の舞う天守閣の眼下に紅テントを張った。演目は『腰巻おぼろ・妖鯨篇』。都市の袋小路で、南の海に死んだ捕鯨船の砲手の幻を追う迷宮譚が、李礼仙、大久保鷹、根津甚八、小林薫らの役者陣によりテント劇場狭しと繰り広げられた。

この岡山公演を成功させるべく、主催の風尽舎(代表:大森誠一)は、前年74年11月30日に岡山市内の喫茶店で「唐十郎抄・同時代への挽歌」と銘打ったイベントを開催した。突如放映中止となった唐十郎監督の幻のテレビドラマ『追跡〜汚れた天使』(出演:中村敦夫、常田富士夫、他)の上映と、劇団状況劇場が後楽園ホールで行った音楽ライブ「唐十郎〜四角いジャングルで唄う」のレコードライブであった。



『腰巻おぼろ・妖鯨篇』ポスター  
(美術:藤原勝之)

### ■岡山河畔劇場

1993年3月発足

「川と街と劇空間」をコンセプトに岡山県下流域都市での優れた舞台芸術公演を企画運営  
事業支援:岡山県、岡山市、倉敷市文化振興財団

□第1回 岡山河畔劇場93春月祭 1993年3月13日~5月2日

◇プロデュース・フォトン『朝日のような夕日をつれて』

3月13日14日 会場:西川アイプラザホール

戯曲:鴻上尚史 演出:岡山大学演劇部

岡山大学、就実大学、中国短大の演劇部員らで結成された学生劇団

◇元祖演劇乃素いき座『阿房列車』

4月3日4日 会場:三光荘アトリウムホール

作:内田百閒 脚色:平田オリザ 演出:土井通肇

1992年に演劇専門誌「テアトロ」のベストワンになった作品の上演

◇郷土の伝統芸能『備中神楽』

4月3日 会場:旭川河川敷・相生橋南下

出演:新砥社・矢戸社合同(岡山県阿哲都哲多町)

河川敷に神楽舞台を設えて古代の神々の物語を謡と舞により上演

◇講演『今なぜ“百閒”なのか』

4月4日 会場:三光荘アトリウムホール

講師:岡将男(百鬼園倶楽部会長)

旭川河畔に幼少期を過ごした内田百閒の人物像と岡山の風土を語る

◇劇団唐組『桃太郎の母』

4月11日 会場:旭川河川敷・相生橋南下

作・演出:唐十郎 出演:唐十郎、鴨鈴女、鳥山昌克、久保井研、他

河川敷に紅テントを設営し水をモチーフにした幻想的な舞台を上演

◇プロジェクトBCG『To Be』

5月1日2日 会場:西川アイプラザホール

作・演出:左近久仁子

社会的な題材を得意とする地元劇団によるオリジナル作品の上演

□第2回 WAAAA本舗『梅ちゃん故郷に帰る』

1993年11月11日12日 会場:西川アイプラザホール

演出:喰始 出演:梅垣義明

岡山出身のエンターティナー梅垣義明が魅せる捨身のパフォーマンス

□第3回 連続2作品公演

◇片桐はいり一人芝居『ベンチャーズの夜』

1994年10月6日7日 会場:岡山県総合文化センター

作・演出:岩松了 出演:片桐はいり

気鋭作家と個性派女優のコンビで大ヒットとなった現代の悲喜劇

◇劇団パノラマ☆アワー『あの夜、ぼくらは理科教室で空を飛んだ』

1994年10月8日9日 会場:旭川河川敷特設会場

作・演出:右来左往

京都を拠点とする若手劇団が宮沢賢治のリリカルな世界を野外劇に

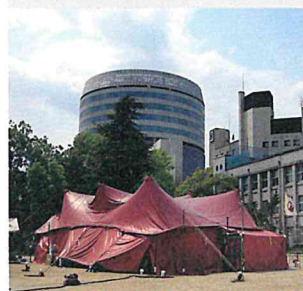


劇団唐組・紅テント公演

『桃太郎の母』1993年4月

『鉛の兵隊』2013年5月

1975年劇団状況劇場が初めて岡上に登場してから半世紀。その間93年の『桃太郎の母』と2002年の『糸女』は劇団唐組として市街地を流れる旭川の河川敷で、13年の『鉛の兵隊』は廃校小学校の運動場で上演された。ほぼ10年毎に開催されてきた唐十郎作品の岡山公演は、22年に再び旭川河川敷に選って『おちよこの傘持つメリー・ポピンズ』が上演される。







SPAC公演

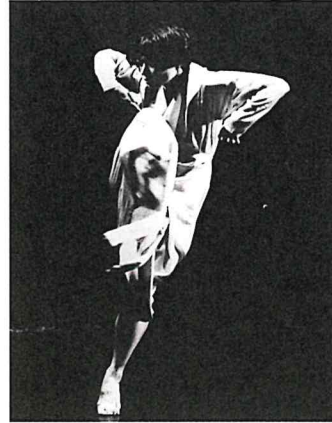
『ディオニュソス』2006年3月  
演出家・鈴木忠志が芸術監督を務めていた静岡県舞台芸術センター（SPAC）の公演が開催された。日本を代表する演劇専用の公立劇場のレパートリー作品が、地方のNPO団体の招聘で実現したことも稀有なことだが、公演だけでなく俳優による「鈴木メソッド」のワークショップや、上演後の舞台で鈴木氏によるアフタートークも行われた。

- 第4回 演劇集団THEガジラ『汚れっちゃまった悲しみに…Nへの手紙』  
1995年9月11日 会場：岡山県総合文化センター  
作・演出：鐘下辰男 出演：千葉哲也、他  
中原中也を主人公に激しい青春群像を描いた新鋭演劇集団の公演
- 第5回 山田せつ子ソロダンス『FATHER』  
1995年11月17日 会場：岡山県立美術館ホール  
構成・出演：山田せつ子 照明：相川正明  
亡父への追憶を美しきオマージュとして表現した国際的な舞踏作品
- 第6回 狂言公演『猿に始まり狐に終わる』  
演出：『鞆猿』『釣狐』  
1996年3月29日 会場：岡山市立市民文化ホール  
出演：茂山千作、茂山千五郎、田賀屋夙生、他 囃子：森田澄子  
人間国宝・茂山千作を迎え大蔵流狂言が中四国初の名曲大曲を上演
- 第7回 青年団二本立公演『カガクするココロ』『北限の猿』  
1996年12月21日 22日 会場：西川アイプラザホール  
作・演出：平田オリザ 出演：山内健司、山村崇子、志賀廣太郎、他  
現代口語演劇を提唱する平田オリザ主宰の青年団が中四国地方初公演
- 第8回 新宿梁山泊・特設テント公演『十六夜の月』梁山泊版・四谷怪談  
1997年6月6日7日 会場：倉敷市芸文館前広場  
作・演出：小椋山洋一 演出：金守珍 出演：新宿梁山泊オールキャスト  
紫龍テントを翻す抒情と熱狂に彩られた舞台が中四国地方に初登場
- 第9回 戸川純一人芝居『マリィヴォロン』  
1997年7月15日 会場：岡山市立市民文化ホール  
作・演出：北村想 出演：戸川純  
映画・音楽・演劇で異彩を發揮する戸川純に北村想が書き下ろし演出
- 第10回 プロジェクト・ナビ『寿歌』  
1997年11月29日 会場：岡山市立市民文化ホール  
作・演出：北村想 出演：佳梯かこ、中原和宏、久川徳明  
現代日本演劇の記念碑的傑作を平成9年度岡山県芸術祭の記念公演



劇団新宿梁山泊・紫龍テント公演

『十六夜の月』1997年6月  
『東京アパッチ族』1999年5月  
状況劇場と黒テントの両劇団に所属していた俳優で結成された新宿梁山泊が、初めて岡山に登場したのは1997年の倉敷市芸文館広場であった。その2年後には岡山市千日前の映画館街の空き地が公演場所となった。それから20余年を経て、全ての映画館が閉じた千日前に、新しい市民会館の岡山芸術創造劇場が23年に開館する。



山田せつ子ソロダンス公演  
『FATHER』1995年11月

アートファーム最初のダンス公演は、山田せつ子のソロ作品を岡山県立美術館のホールで開催した。山田氏の演出で舞台には天井から細い糸のような一条の砂が落下を続けた。静謐で緊迫した空間を満たしていたのは思慕と悔恨を背負った身体であった。

岡山河畔劇場 10周年企画  
寺山修司の世界展 2002年11月

寺山修司が脚本・監督した映画・ビデオ作品の上映と夫人・九條今日子氏のトークのほか、歌人・福島泰樹の短歌絶叫コンサート（右掲写真）、地元演劇人による街頭劇『寺山修司探偵団』の上演、ポスター展示やブックフェアなど、多彩な企画が2週間にわたり開催された。



- 第11回 劇団態変『死霊』  
1998年11月27日28日 会場：西川アイプラザホール  
作・演出：金満里 出演：金満里、木村年男、福森慶之介、他  
わが国初の重度身体障がい者により結成された舞台芸術表現集団の公演
- 第12回 新宿梁山泊・特設テント公演『東京アパッチ族』  
1999年5月15日16日 会場：表町パブリックスクエア（岡山市表町3丁目）  
作：坂手洋二 演出：金守珍 出演：黒沼弘巳、近藤結有花、他  
“ロマンの復権”を掲げる紫龍テント劇場が岡山市街の商店街に出現
- 第13回 『王将』  
2000年2月24日 会場：岡山市立市民文化ホール  
作：北條秀司 特別演出：松尾スズキ  
出演：宮藤官九郎、板尾創路、片桐はいり、西牟田恵、荒川良々、他  
不朽の名作『王将』を鬼才・松尾スズキの演出と異色の俳優陣で上演
- 第14回 『ゴドーを待ちながら』  
2000年7月1日 会場：西川アイプラザホール  
作：サミュエル・ベケット 演出・美術：串田和美  
出演：緒形拳、串田和美、大森博、田中哲司、ハッピー  
不条理演劇の傑作を名優・緒形拳と演出家兼俳優・串田和美が上演
- 第15回 『月の岬』平成12年度岡山県芸術祭選定事業  
2000年9月2日3日 会場：早島町民総合会館「ゆるびの舎」  
作：松田正隆 演出：平田オリザ  
出演：内田淳子、太田宏、金替康博、松井周、藤野節子、他  
読売演劇大賞最優秀作品賞・優秀演出家賞に輝く名作舞台の再演
- 第16回 劇団黒テント『メザスヒカリノ サキニアルモノ 若しくはパラダイス』  
2001年6月29日 会場：西川アイプラザホール  
作：松本大洋 演出：斎藤晴彦 出演：さとうこうじ、斎藤晴彦、岩井ひとみ、他  
人気漫画家・松本大洋の夢想世界を俊英の演出家と俳優陣で舞台化
- 第17回 劇団唐組『糸女郎』岡山河畔劇場創立10周年企画  
2002年4月21日 会場：旭川河川敷・相生橋南下  
作・演出：唐十郎 出演：唐十郎、鳥山昌克、久保井研、稲荷卓央、藤井由紀、他  
繭の納屋工場を舞台に旭川河畔の風景を融合させた唐十郎の幻想世界
- 第18回 『寺山修司の世界展』岡山河畔劇場創立10周年企画  
2002年11月1日～15日  
◇映像上映  
11月1日～15日 会場：シネマクレール石関、スペース50cc  
長編映画：『田園に死す』『書を捨てよ町へ出よう』『初恋地獄篇』  
実験映画：『迷宮譚』『痲瘡譚』『書見機』『消しゴム』『二頭女』  
『トマトケチャップ皇帝・オリジナル完全版』  
演劇ビデオ：『奴婢訓・晴海公演』『天井桟敷ビデオアンソロジー』  
『市街劇ノック』『レミング・壁抜け男』  
寺山修司が脚本・監督した多彩な映画とビデオを連続上映
- ◇コンサート  
福島泰樹 寺山修司追悼・短歌絶叫コンサート『望郷』  
11月1日 会場：LIVEHOUSE BIRD  
出演：福島泰樹（短歌絶叫）、永畑雅人（ピアノ）  
歌人・福島泰樹が寺山修司へのオマージュを捧げるコンサート
- ◇トークショー  
『不死鳥・寺山修司、その人と芸術を語る』  
11月3日 会場：シネマクレール石関  
ゲスト：九條今日子（故寺山修司夫人・元演劇実験室・天井桟敷プロデューサー）  
夫人とプロデューサーの立場から不世出の天才・寺山修司を語る





プロジェクト・ナビ公演『寿歌』1997年11月

現代日本演劇の記念碑的傑作を北村想の演出で上演。核戦争後の地方都市をリヤカーを引きながら彷徨する旅芸人のキョウコを佳穂かこ、ゲサクを中原和宏が好演した。岡山県芸術祭の記念公演として開催され、北村氏による戯曲創作のレクチャーも併催された。

◇パフォーマンス

『寺山修司探偵団〜まちで見つけたテラヤマ・ワールド〜』  
11月4日9日10日 会場：岡山市街地、スペース50cc  
構成：大森誠一 出演：ソフトギア、脳みそ50cc  
地元劇団のメンバーが岡山市街地を移動しながら街頭劇を展開

◇ブック&グッズフェア

11月1日〜15日 会場：丸善岡山シンフォニービル店  
展示販売：寺山修司の詩、短歌、俳句、小説、評論、エッセイ、映画、演劇、写真に関する書籍、カタログ、ポスター、ポストカード、VTR、CDなど  
本展でしか入手できない数々のテラヤマ・グッズを展示販売

◇ポスター展示

11月1日〜15日 会場：シネマクレール丸の内  
作者：横尾忠則、宇野亜喜良、及川正通、他  
寺山修司主宰の演劇実験室・天井棧敷の公演ポスターを展示

□第19回 柄本明ひとり芝居『煙草の害について』

2003年7月12日 会場：西川アイブラザホール  
原作：アントン・チェーホフ 構成・演出・出演：柄本明  
卓越した存在感の柄本明がチェーホフの喜劇をレパトリー作品に

□第20回 燐光群『CVRチャリー・ピクチャー・ロミオ』

2003年12月2日3日 会場：西川アイブラザホール  
演出：坂手洋二、ロバート・パーガー、パトリック・ダニエルズ、アービン・グレゴリー  
6件の飛行機事故に残されたボイス・レコーダーの迫真の記録を再現

□第21回 北区つかこうへい劇団『熱海殺人事件』〜平塚から来た女刑事〜

2004年8月19日 会場：倉敷市芸文館アイシアター  
作・演出：つかこうへい 出演：三浦祐介、木下智恵、小川智之、他  
つかこうへいの代表作『熱海殺人事件』を若手俳優陣らが熱血上演

□第22回 燐光群『屋根裏』

2005年3月22日23日 会場：西川アイブラザホール  
作・演出：坂手洋二 出演：中山マリ、川中健次郎、猪熊恒和、大西孝洋、他  
舞台上に設えられた小空間・屋根裏を震源とする孤絶と連帯の物語

□第23回 五反田団『いやむしろわすれて草』

2005年4月22日 会場：西川アイブラザホール  
作・演出：前田司郎 出演：奥田洋平、後藤飛鳥、黒田大輔、志賀廣太郎、他  
独特のユーモアと劇空間のセンスが注目を集める小劇場演劇の白眉

【関連企画】アフタートーク：前田司郎、俳優陣

□第24回 SPAC『ディオニュソス』

2006年3月26日 会場：岡山市立市民文化ホール  
原作：エウリピデス 演出：鈴木忠志 出演：SPAC(静岡県舞台芸術センター)俳優陣  
世界的演出家・鈴木忠志が芸術監督を務めるSPAC版ギリシア悲劇

【関連企画】

「スズキ・メソッド・ワークショップ」2月19日 西川アイブラザホール  
「SPAC舞台写真&衣裳展」3月1日〜13日 アートガーデン  
「トークセッション」ゲスト：重政良恵 3月4日 アートガーデン  
公開リハーサル&アフタートーク 講師：鈴木忠志 岡山市立市民文化ホール



柄本明ひとり芝居公演

『煙草の害について』2003年12月

演出・俳優の柄本明はチェーホフの舞台化にも注力しており、レパトリー作品『煙草の害について』もそのひとつ。一気に物語の世界に引き込んでしまい、会場を笑いの渦で包んでしまう卓越した演技で魅了した。



シアターコクーン企画公演

『ゴドーを待ちながら』2000年7月

会場の小ホール・西川アイブラザは発売日ではほぼ完売。演出・出演の串田和美に緒形拳が共演した不条理演劇の傑作を堪能した。平土間の中央に舞台が設けられ、対面式の客席をトタン板などで囲った粗野な空間が現出した。

□第25回 青年団『火宅か修羅か』

2008年9月18日 会場：西川アイブラザホール  
作・演出：平田オリザ 出演：山村崇子、志賀廣太郎、兵藤公美、島田曜哉、他  
檀一雄「火宅の人」に着想を得て書かれた家族の物語の秀作を再現

【関連企画】

平田オリザ講演「いま社会が演劇に求めていること」9月10日 西川アイブラザホール

平田オリザの演劇ワークショップ「対話と表現」9月16日 岡山国際交流センター

□第26回 Monochrome Circus『掌編ダンス集1』

2008年12月12日13日 会場：本涌山本行寺  
上演作品：「最後の微笑」「朱鷺によせる哀歌」「凧」  
振付・演出：坂本公成 出演：坂本公成、森裕子、荻野ちよ、佐伯有香、他  
コンタクト・インプロヴィゼーションの手法を用いた身体表現作品

【関連企画】

ワークショップ：坂本公成、他 11月23日24日 本涌山本行寺

アフタートーク：秋山享祐、大森誠一 12月13日 本涌山本行寺

□第27回 Monochrome Circus『掌編ダンス集2』

2009年12月12日13日 会場：本涌山本行寺  
上演作品：「きざはし」「レミング」「怪物」  
振付・演出：坂本公成 出演：坂本公成、森裕子、荻野ちよ、公募参加者、他  
2年目の公演では作品「レミング」を地元参加者とともに創作上演

【関連企画】創作ワークショップ：12月9日10日11日 本涌山本行寺

□第28回 野外劇団・楽市楽座『鏡池物語』

2010年4月2日3日4日 会場：旭川河川敷・相生橋南下(さくらカーニバル会場)  
作・演出・作曲：長山現 出演：長山現、佐野キリコ、萌  
芸能の復権を唱えて旅公演を続ける楽市楽座の全国ツアー初演地

□第29回 燐光群『3分間の女の一生』

2010年12月17日 会場：岡山市立市民文化ホール  
作・演出：坂手洋二 出演：竹下景子、円城寺あや、さとうこうじ、中山マリ、他  
日本の女性たちの現実を全てのシーンを3分間で活写した新作舞台

□第30回 燐光群『たった一人の戦争』

2011年12月9日 会場：岡山市立市民文化ホール  
作・演出：坂手洋二 出演：中山マリ、円城寺あや、川中健次郎、猪熊恒和、他  
震災、原発事故という日本の現実を想像力により超克しようと試みる

□第31回 燐光群『星の息子』

2012年12月18日 会場：岡山市立市民文化ホール  
作・演出：坂手洋二 出演：渡辺美佐子、円城寺あや、鴨川てんし、猪熊恒和、他  
沖縄に生きてきた女性の回想をもとに日本の戦後史と今を描出する

□第32回 下鴨車窓『濁いた蟹気楼』

2015年9月26日27日 会場：本涌山本行寺  
作・演出：田辺剛 出演：OFT(大沢めぐみ、藤原大介、高杉征司)  
平穏な日常に潜む危うい人間関係を描き不条理演劇の新境地を創出

■アートファーム創立20周年企画

2012年11月〜2013年5月

映画・演劇・音楽・美術・パフォーマンスなど半年間にわたるノンストップ企画を実施  
事業支援：文化庁、岡山市スポーツ・文化振興財団、福武教育文化振興財団

□想田和弘監督『演劇1』『演劇2』

2012年11月17日 会場：シネマ・クレール丸の内  
監督・製作・撮影・編集：想田和弘 出演：平田オリザ、青年団/こまばアゴラ  
劇場の人々  
想田視察映画が平田オリザとその集団に密着したドキュメント作品



坂本長利ひとり芝居公演

『土佐源氏』2013年3月

岡山市内のお寺の本堂を会場に蠟燭の灯で上演された。宮本常一が描いた博労の赤裸々な生き様を坂本長利が熟演。その舞台は2013年に1,160回を数え、92歳を迎えた2022年の岡山公演で1,220回に達し独演劇の金字塔といえる。





青年団二本立て公演

『カガクするココロ』+『北限の猿』1996年12月

平田オリザ主宰の青年団の公演が、中四国地方において初めて開催された。その後2008年には『火宅か修羅か』も上演され、併催されたワークショップとも相まって、平田氏による現代口語演劇への理解が深まっていった。

□坂本長利ひとり芝居『土佐源氏』

2013年3月2日3日 会場：本涌山本行寺

原作：宮本常一 演出・出演：坂本長利

1967年の初演以来、岡山公演で1,160回を迎えた独演劇の金字塔

□スーフルール・桜前线2000キロの旅『ささやきの詩想レジスタンス』

2013年4月4日 会場：旭川河川敷（さくらカーニバル会場）

構成・演出：オリビエ・コント、浅野佳成

出演：スーフルール・コマンド・ポエティック、東京演劇集団風

フランスのパフォーマンス集団が花見見物の人々に詩を語りかける

□唐十郎の世界展 ～演劇+音楽+映画+美術+対話+街区～

2013年5月1日～6日

◇唐組『鉛の兵隊』

5月3日4日 会場：岡山市立旧山下小学校グラウンド・特設紅テント

作：唐十郎 演出：唐十郎、久保井研 出演：唐組役者陣

1993年から10年ごとに岡山登場の唐組。幻想と抒情の天幕劇

◇小室等ライブ&トーク『唐十郎を謳う』

5月2日 会場：ライブハウス城下公会堂

歌・演奏：小室等 聞き手：小堀純

初期作品の劇中歌を数多く作曲した小室等が交友談をまじえて唄う

◇唐十郎シネマセレクション

5月3日4日 会場：岡山市立オリエント美術館地下講堂

作品：『汚れた天使』（監督：唐十郎）『ガラスの使徒（つかい）』（監督：金守珍）

『シアトリカル』（監督：大島新）

『21世紀リサイタル～うたと唐十郎～』（演奏・指揮：小室等）

アフタートーク（日替わり）：西堂行人、林海象、小堀純

唐十郎監督作品から唐組ドキュメンタリーまで話題作をラインナップ

◇唐版演劇ポスター珠玉選

5月1日～6日 会場：丸の内アートラボ準備室

絵師：横尾忠則、金子國義、高島華甫、及部克人、篠原勝之

水木しげる、合田佐和子

状況劇場から唐組にいたる上演作品のポスター約30点を精選展覧

◇トークセッション『唐十郎が拓いたアングラ演劇と万華鏡ワールド』

美術編：5月1日 会場：丸の内アートラボ準備室 講師：小堀純

音楽編：5月2日 会場：ライブハウス城下公会堂 講師：小室等+小堀純

演劇編：5月3日 会場：岡山市立オリエント美術館地下講堂 講師：西堂行人+小堀純

映画編：5月4日 会場：岡山市立オリエント美術館地下講堂 講師：林海象+西堂行人

唐十郎とその作品に精通し、親交を深めてきた専門家のライブトーク



遠藤寿美子プロデュース公演『月の岬』2000年9月

松田正隆の戯曲を平田オリザが演出した秀作舞台。京都で「無門館」（後年アトリエ劇研に改称）という小劇場のプロデューサーとして優れた演劇人の輩出に尽力した遠藤寿美子の企画で、読売演劇大賞最優秀作品賞と優秀演出家賞に輝いた。3氏によるアフタートークも併催した。



劇団態変公演『死霊』1998年11月

大阪を拠点に全国スケールで活躍する劇団で、主宰者の金満里をはじめ出演者の全てが重度身体障害者で構成された日本初の表現集団。岡山公演にあたっては社会人から大学生まで多数のボランティアスタッフによるサポート体制を組んで開催された。



スーフルール公演

『ささやきの詩想レジスタンス』

2013年4月

フランスのパフォーマンス集団が「さくらカーニバル」を開催中の旭川河川敷に登場。花見客の耳元で詩をささやいて歩いた。

劇団黒テント公演

『メザシヒカリノサキニアルモノ若しくはパラダイス』

2001年6月

漫画家・松本大洋の原作を舞台化。演出の斎藤晴彦をはじめ黒テントの精鋭陣がファンタジックな劇場公演を実現した。



劇団燐光群公演『屋根裏』2005年3月

舞台上に置かれた「屋根裏キット」で上演された斬新な公演は、読売文学賞・紀伊國屋演劇賞・読売演劇大賞最優秀演出家賞を総督めた。坂手洋二作・演出の燐光群公演は2003年『CVR』、2010年『3分間の女の一生』、2011年『たった一人の戦争』、2012年『星の息子』などもある。